

第3回セミナーアンケート結果

- ・教師は、授業。そして、教材研究の時間が大切。まさに、その通りと思った。
- ・納得型の子供に対して、自分としては、できるだけ時間をとって応じているつもりだが、本当に納得しているかと思うと、改めて反省させられた。
- ・教師も多忙なら、子供も多忙と思っている。教師には、子供をひきつける破壊力が必要と思ったが、その破壊力どうやったらつけることができるか、勉強していきたいと思う。
- ・学校外の方からの話が聞けて、貴重な時間となった。
- ・公教育とは違った視点での教師像を知ることによって、とてもよい活性化の機会となった。
- ・公教育に必要なものを教えられた。
- ・今の公教育が置かれている現状の中で、何をしなければならぬかを考えさせられた。
- ・予備校の厳しさをもう少し知りたかった。
- ・人気講師には、大量の予習時間があり、発問などの言葉選びに多くの時間を割いている点を、私もこの点に気をつけ、励んでいきたいと思う。
- ・予習の大切さを改めて痛感した。
- ・話に興行きがあり、一つの考え方として納得した。
- ・自己評価で甘くなりがちな今の教育現場では丹羽先生のような視点で物申す方はぜひ必要と思う。
- ・子供を分析していく姿勢は、学校には少し欠けていると思う。予備校での子供の評価および授業の評価は、教育にとって必要なものであると痛感した。
- ・新しい視点をいただいた。教師を続けていくうちに、慣れもあって、与えられた教材をそのまま疑問を持たずに行っていた。もちろん工夫はしていたが、もっと根幹になる部分をしっかり捉えていかなければならないと思う。
- ・自分の見方が一過化しつつある中で、まったく異なった視点が見えてきた。目からうろこだった。
- ・サテライト授業。子供にぜひ見せてみたいと思う。
- ・納得型の子供を大切にしていくことを考えた授業を、大切にしていきたいと思った。
- ・生ぬるい水の中ばかりにせず、今日話を忘れずに、がんばっていききたい。
- ・教師は教育課程に忠実に言われたが、絶対評価になってから、よけいに忠実にならなければならなくなったと思う。以前は、個々の教師の独自のカリキュラムをして評価することができたと思うが。
- ・実際、公教育の現場では、教師である我々の雑務の多さにだんだん腹が立ってきた。やはり、授業中心の仕事がしたいと思った。
- ・予備校で「本質的理解」の授業をしなければならないのは、悲しい現実だと思う。授業の評価は短い期間で限定して考えれば可能だが、長い期間で考える評価は、難しいと思う。
- ・教育について歯の浮くような話が多い中、実態を見据えた話で面白かった。自分の息子も納得型の子供であったが、河合塾の授業はとてもおもしろかったと言っていたのが思い出された。
- ・もっと学校と塾の分権、よい意味での交流や認め合いが行われるとよいと思う。
- ・自分の新任三年間は、教材研究を徹底的にやった。それが今できなくなっているのは。教えること以外のことがどんどん増え、やれなくなっているのが現実だと思う。最初は教えることがすべてと思ったが、公教育の場面では、いろいろなことすべてが教育であると思う。